

2. 男女の人権について

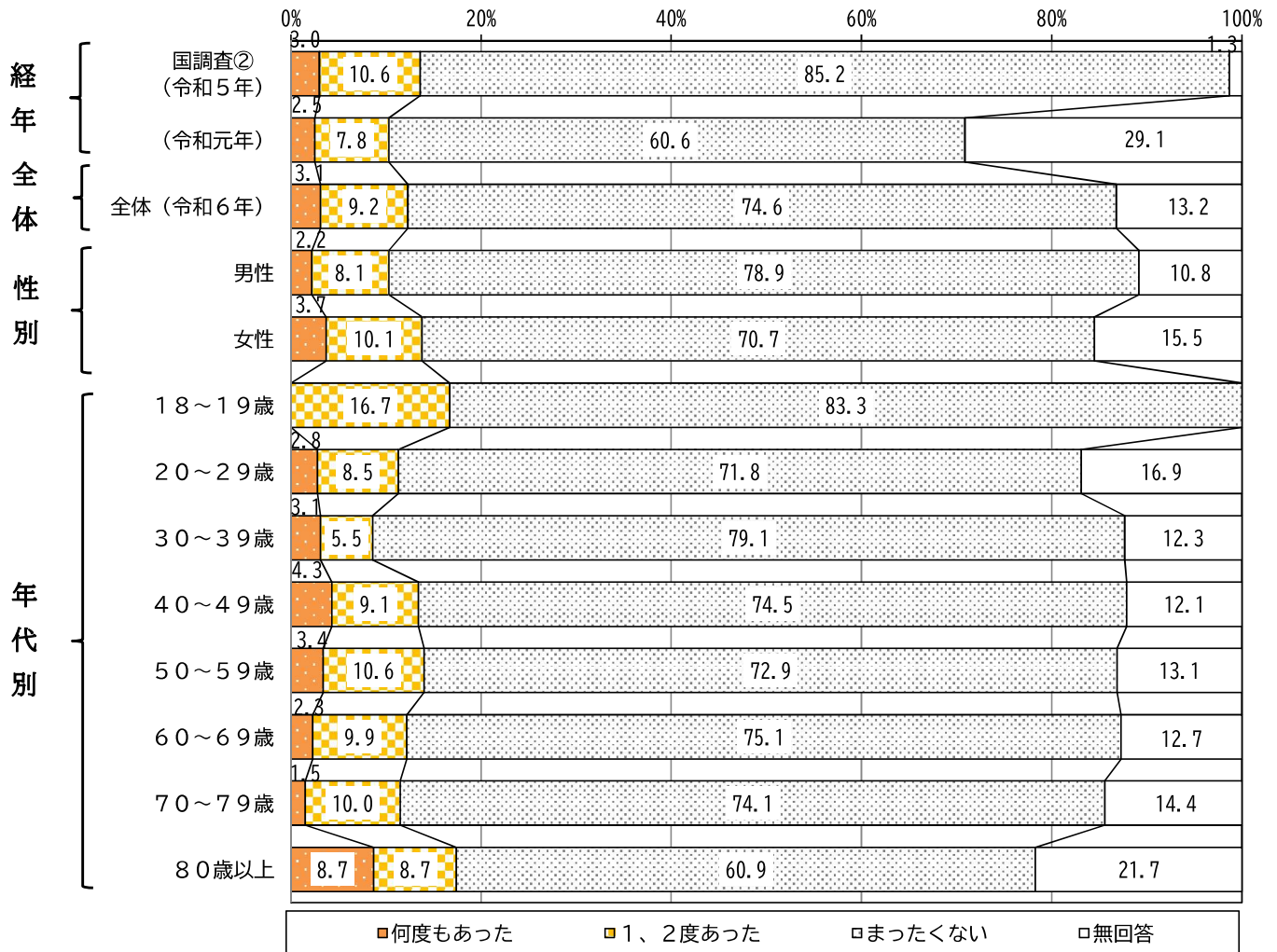
(1) 夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無（問4）

※問4へは、現在、夫や妻(事実婚や単身赴任など別居中を含む)、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方がお答えください。いらっしゃらない方は、問5へお進みください。

問4 あなたはこれまでに、あなたの夫や妻(事実婚や単身赴任など別居中を含む)、生活の本拠を共にする交際相手から、次のような行為をうけたり、されたことがありますか。次のアからエのそれぞれについて、該当するものを一つ選んでください。

図表4－ア『身体的暴行』の有無（N=2,000）（経年・全体・性別・年代別）

※身体的暴行（例：なぐったり、けったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行）

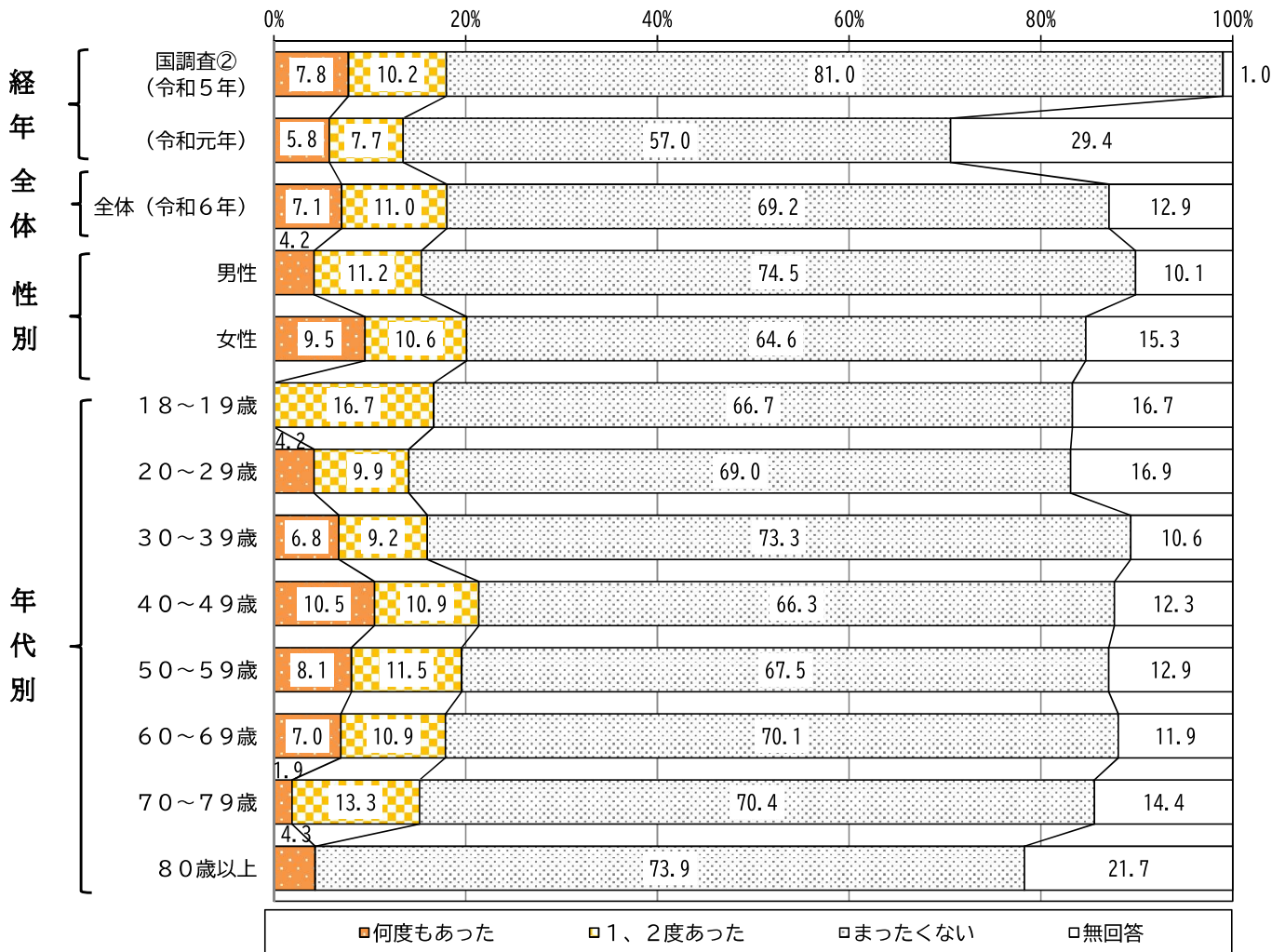


夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の『身体的暴行』（例：なぐったり、けったり、物を投げつけたりするなどの身体に対する暴行）の有無については、「経験がある」と回答した者（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計（以下同じ））は、245人（12.3%）となっており、男性10.3%、女性13.8%であった。

年代別でみると、「経験がある」と回答した者の割合は、80歳以上では17.4%と他の年代より高くなっている。

図表4-イ 『心理的攻撃』の有無（2,000）（経年・全体・性別・年代別）

※心理的攻撃（例：人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長時間無視するなどの静止点的な嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

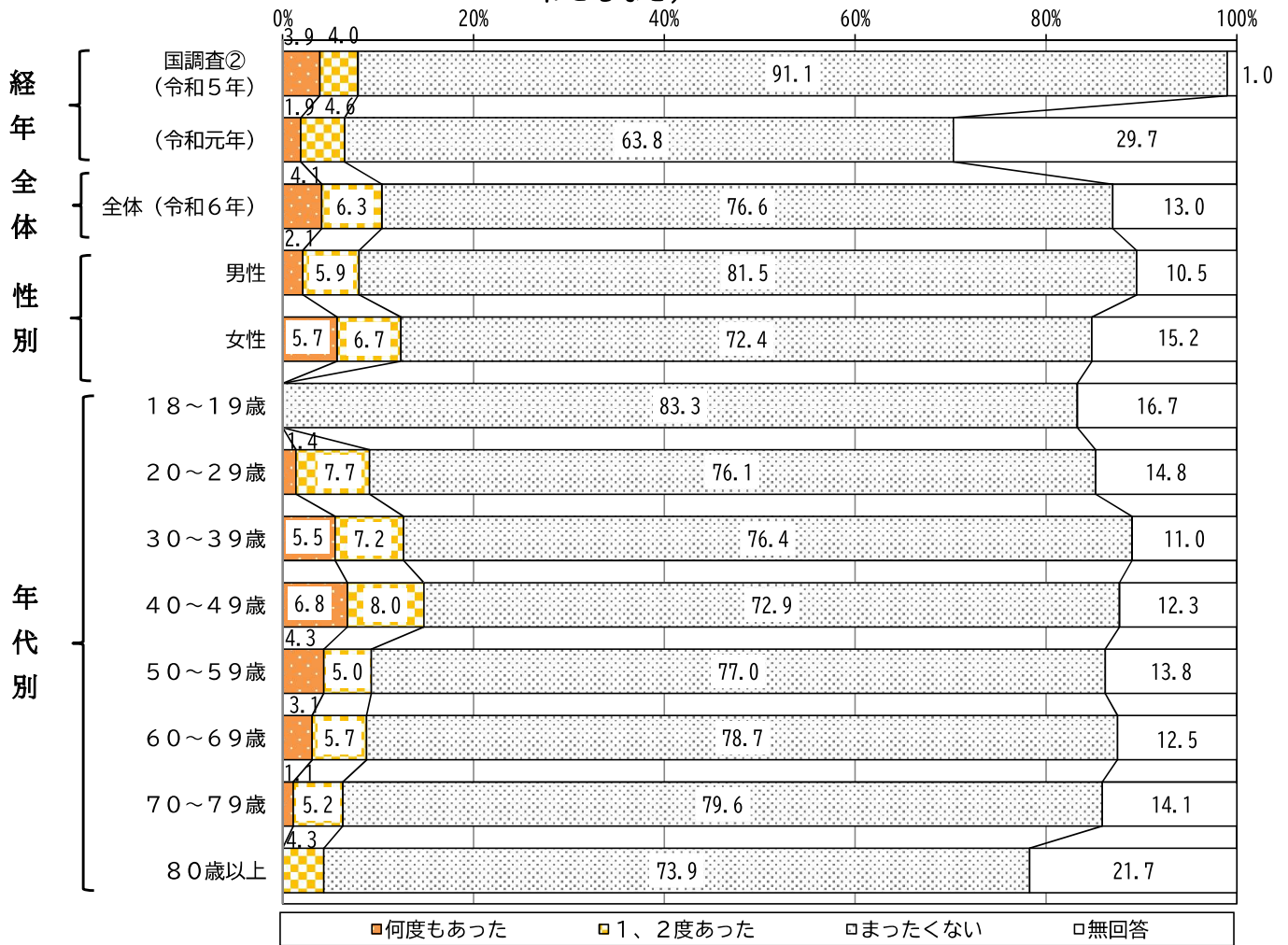


夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の『心理的攻撃』（例：人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長時間無視するなどの静止点的な嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）の有無については、「経験がある」と回答した者（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計（以下同じ））は、360人（18.1%）となっており、男性15.4%、女性20.1%であった。

年代別でみると、「経験がある」と回答した者の割合は、40歳代では21.4%、50歳代では19.6%と他の年代より高くなっている。

図表4-ウ『経済的圧迫』の有無（N=2,000）（経年・全体・性別・年代別）

※経済的圧迫（例：給料や貯金を勝手に使われる、生活費を渡さない、デートや生活費を無理やり払わせるなど）

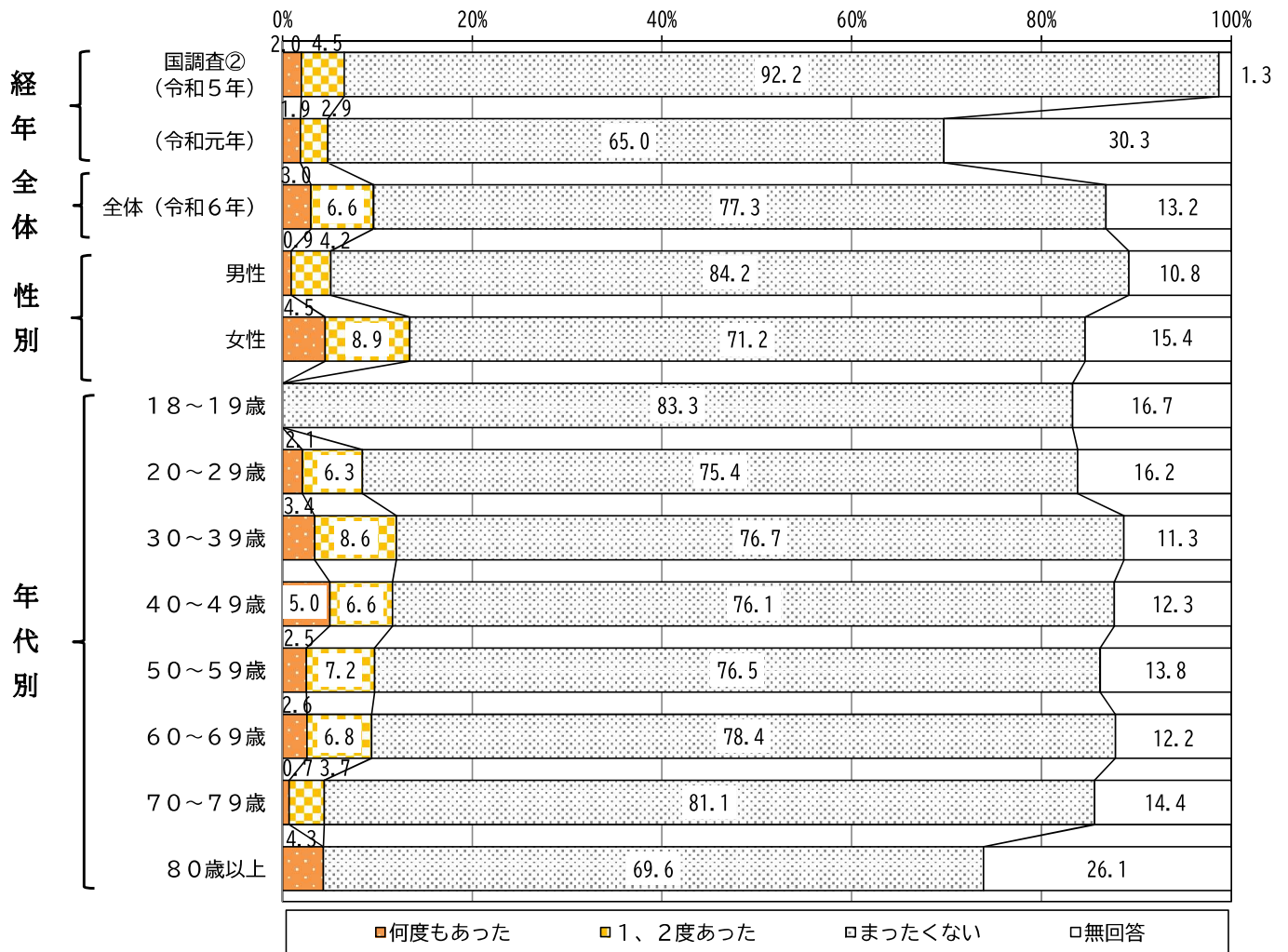


夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の『経済的圧迫』（例：給料や貯金を勝手に使われる、生活費を渡さない、デートや生活費を無理やり払わせるなど）の有無については、「経験がある」と回答した者（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計（以下同じ））は、208人（10.4%）となっており、男性8.0%、女性12.4%であった。

年代別でみると、「経験がある」と回答した者の割合は、40歳代では14.8%、30歳代では12.7%と他の年代より高くなっている。

図表4－エ『性的強要』の有無（N＝2,000）（経年・全体・性別・年代別）

※性的強要（例：嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ画像を見せられる、避妊に協力しないなど）



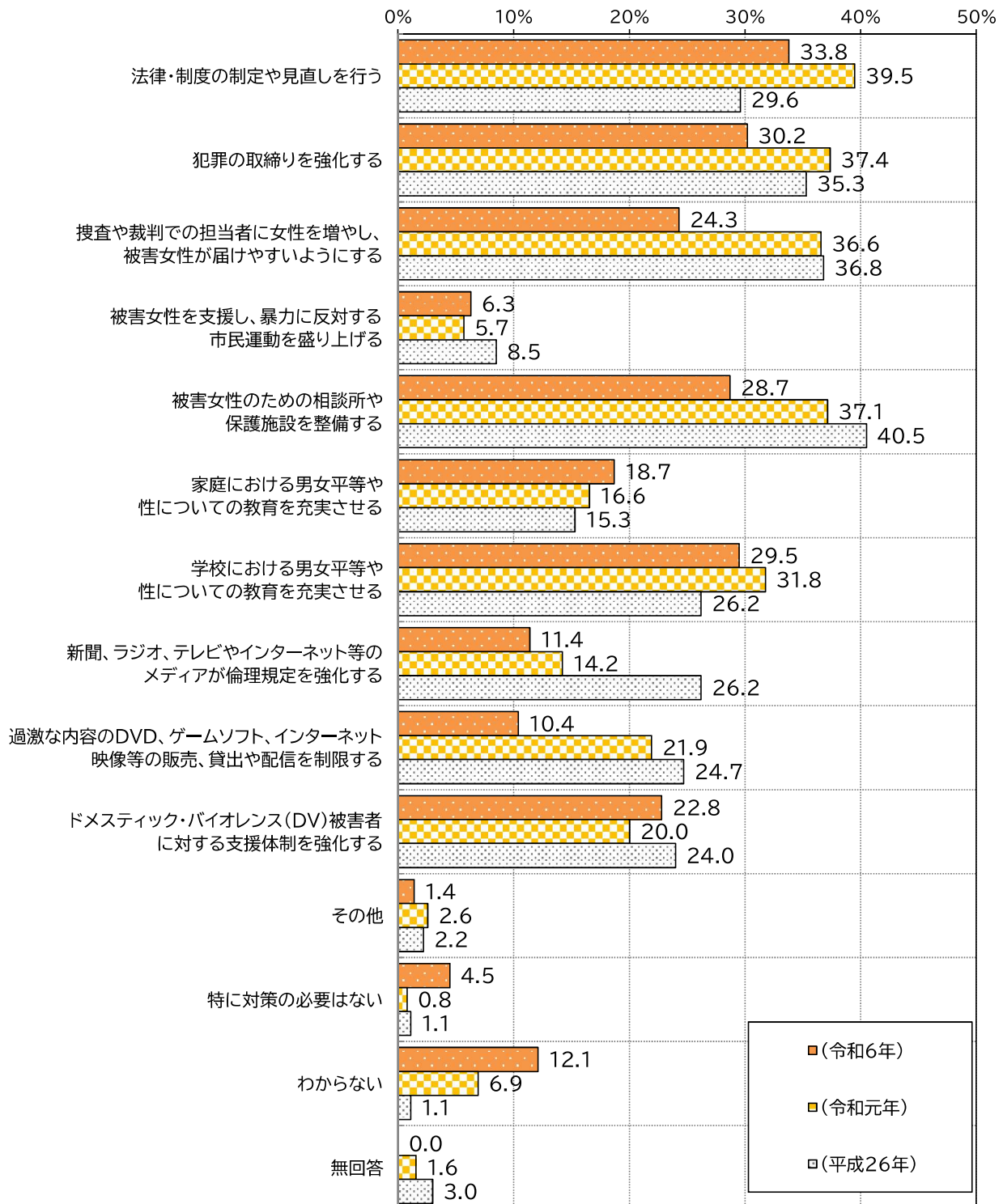
夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の『性的強要』（例：嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ画像を見せられる、避妊に協力しないなど）の有無については、「経験がある」と回答した者（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計（以下同じ））は、190人（9.6%）となっており、男性5.1%、女性13.4%であった。

年代別でみると、「経験がある」と回答した者の割合は、30歳代では12.0%、40歳代では11.6%、50歳代では9.7%と他の年代より高くなっている。

(2) 女性に対する暴力をなくすための方策（問5）

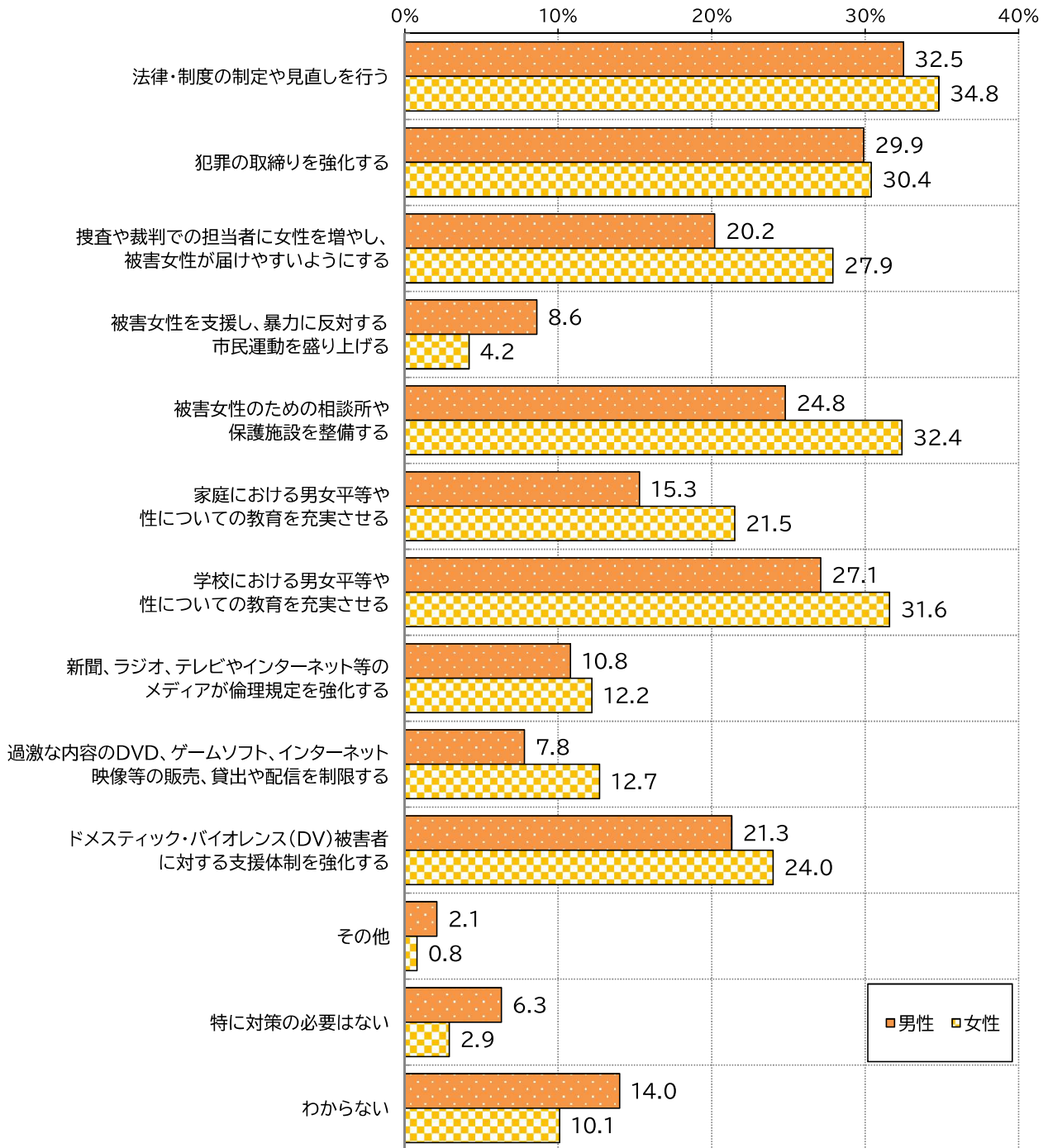
問5 女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あなたのお考えに近いものを三つまで選んでください。

図表5-1 女性に対する暴力をなくすための方策（N=2,000）（経年）



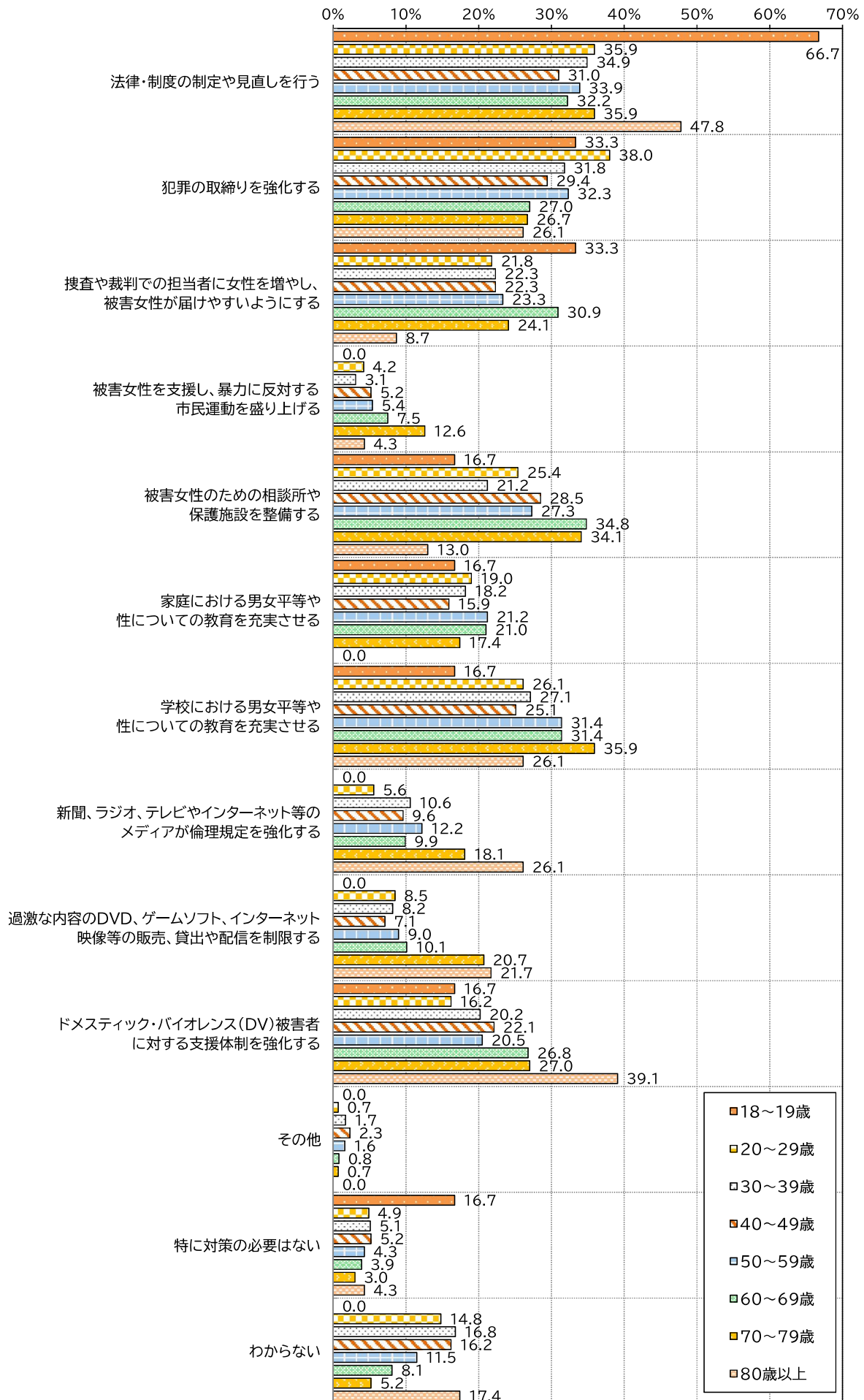
女性に対する暴力をなくすための方策については、「法律・制度の制定や見直しを行う」（33.8%）（前回調査 39.5%）と回答した者の割合が最も高く、次いで、「犯罪の取締りを強化する」（30.2%）（同 37.4%）、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」（29.5%）（同 31.8%）となっている。

図表5-2 女性に対する暴力をなくすための方策（性別）
（N=男性 939 女性 1,039）



性別でみると、男性・女性ともに「法律・制度の制定や見直しを行う」（男性 32.5%、女性 34.8%）と回答した者の割合が最も高く、次いで、男性は「犯罪の取締りを強化する」（29.9%）、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」（27.1%）、女性は「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」（32.4%）、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」（31.6%）の順になっている。

図表5-3 女性に対する暴力をなくすための方策（N=2,000）（年代別）



年代別でみると、18～19 歳、30～50 歳代、80 歳以上は「法律・制度の制定や見直しを行う」と回答した者の割合が最も高く、20 歳代は「犯罪の取締りを強化する」(38.0%)、60 歳代は「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」(34.8%)、70 歳代は「法律・制度の制定や見直しを行う」「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」(同率で 35.9%) がそれぞれ最も高くなっている。